

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念やアリス甲子園の理念に基づき、グループホームの運営方針をスタッフで話し合い決めたものがある。毎年研修で理念について考える時間も設けている。	総合施設の中にあつて、法人の理念に基き、グループホーム独自の理念をスタッフで検討し揚げて日々のケアに生かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々地域に散歩に出かけ、地域の方とあいさつを交わしたり、地域自治会の行事(夏祭り・餅つき)参加したり、地域の大学の有志で行われている催しに地域の方と一緒に参加している。また、地域大学生のゼミの方の実習の受け入れ、トライやるウィークの中学生の受け入れ、地域ボランティアさんに来ていただいたりもしている。毎月1度施設の前のバス停周りの清掃を入居者様と共に行っている。	開設以来3年の間地域の一員として周辺の人々と関わる努力を重ねてきたことが良い結果をもたらしている。行事や催事の参加と共に日常的に交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	5/19トライやるウィークに来た中学生に向けて認知症サポーター養成講座を行なった。また、3/19アリスフェスタとして3部構成で認知症サポーター養成講座や後見人制度などの研修を地域の方に向けて行った。今年度も2/19に開催予定	年3回程度地域の人々に認知症サポーター養成講座を行っている。	入居者の家族や親しい人達にも認知症の人の理解をもっと深めてもらえるよう考慮する	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、民生委員さんだけでなく、地域自治会会長様にも参加していただき、地域の問題なども一緒に考えたり話し合ったりもしている。運営会議でのご質問やご提案でケアに取り入れられることは行っていきたいと考えている。ご家族様からのご要望でお便りにお一人おひとりの様子のコメントを書くなどご意見取り入れている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しケアの状況を報告して出席者との意見交換を積極的に行いサービス向上に生かすよう努力している。	運営会議には現場のスタッフも出席し活発に意見を交換する	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に市の介護課職員の方に参加していただき、情報の共有を行っている。運営会議の報告を持参し、連携を図るようにしている。また、事故などで受診をした際にはすぐに市に報告をし、必要な事柄は確認をとるようにしている。	運営推進会議に市の担当者が出席したり、グループホーム管理者が市へ報告に出向いたりすることで協力関係が維持できる。		

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしている方はいない。玄関に関しては安全性から施錠はしているが、居室やリビングの窓は施錠はしていず、自由に行き来できるようにしている。また、年1回は必ず身体拘束についての研修や不適切ケアについての研修を行っている	スタッフミーティング等で身体拘束についての意識を保持するように確認している。研修も定期的に行っている。ベランダからの出入りは自由。玄関は安全性の面からは止むを得ない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回はGH内研修を行っている。虐待防止の取り組みはもちろんのこと、不適切ケアについても常に意識してスタッフ間でも声を掛け合えるように心がけている。	定期的に研修を行い意識化に努めている。スタッフ同士でお互いに注意し合う雰囲気もある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回はグループホーム内研修を行っている。また法人全体で虐待研修を2回おこなった。2月末にも研修があり、参加予定である。現在、入居されている方で日常生活自立支援事業・成年後見人制度を利用されている方はいない。3/19アリス地域フェスタでも後見人制度について学んだ。今後も施設担当弁護士の方に相談指導いただいく	研修への参加は定期的に行っているが現在は支援の対象になる入居者はいない。	今後も継続して学ぶ機会を作りスタッフ全員が相談に応じられるようにする。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	平成25年9月1日より新入居者はいない。ご入居前に面接し説明、入居時の契約時に再度説明し、ご理解を図っている。日々ご家族様から疑問や質問には速やかに対応するように心がけている	入居の際には十分な説明を行った。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご家族様からの質問やご要望をお聞きするようにしている。また、年1回はが家族にアンケートを取りご要望などが話しやすいようにしている。アンケートの中から見直しをしなければならないことは検討するようにしている。	運営会議やアンケートによって利用者、家族の意向を確認し、運営に反映するよう努力している。	家族の来訪時に現況を報告することに加え要望や意向をじっくり聞く時間を持つ
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1度は会議を行い、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。必要な物品や出勤体制や運営について話合うようにしている。また、様々な仕事を各自役割を持って担当者中心に進めている。	毎月会議を開き職員からの意見や要望、提案等を聞き運営に生かしている。日常的にも意見を言える雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェックシートにて半年に1度面接を行い、各自の目標設定や目標についての評価を話し合い、自己研鑽できるように職員それぞれの強みを活かせるように次期の目標設定を一緒に考え達成に向けて取り組めるようにしている。	半年に一度ヒアリングを行い職員個々の状況把握及び職場環境の向上に努めている。	職員の成長を評価し待遇向上につなげる
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を立て、施設内外の研修に参加させている。また、研修の紹介や情報の提供を行い、職員それぞれの興味あることを学べるように支援している。	職員一人ひとりのスキルアップを図るよう努めている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、年2回に交流を図っている。また、他施設の運営推進会議に参加、自施設の運営会議に他施設の方に参加してもらいご意見・ご提案を頂き、日々の運営の参考にさせていただいたりしている。施設からの研修だけでなく、機会があれば研修や交流会に出来るだけ参加している	市内のグループホーム連絡会への参加、外部への研修等を定期的に行い同業者との交流に努めていてホームのサービスに還元するようにしている。	現場のスタッフが他事業所の同業者と交流することで刺激を受けてスキルアップにつなげる。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人に施設に来ていただき直接会い、お話を聞くようにしている。緊張されていたり、ご本人の思いを聞き取れないこともあるので、ご家族に協力していただきセンター方式の用紙を用いて情報収集に努め安心できる環境づくりに意識している	入居までの期間に施設見学、通信の送付一待機状況の報告一自宅での面接と細かな関係作りがなされている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際から、ご入居までにも毎月アリスだよりを送付したり、定期的にお電話をし状況についてや困りごとを伺うようにしご家族との関係づくりに努めている。また入居決定後も再度面接等直接お会いし要望など確認している。	施設見学の段階から相談援助を行い入居に至るまでの間も関係の確立に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の理解をできるだけ深め、家族の意向も尊重しながら本人の必要としている支援を見定めている。ご家族に協力していただきセンター方式の用紙で情報の収集にも努めている。	入念なアセスメントを行い適確なサービスを家族に提示し話し合いの上サービスを導入している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、本人の持てる力を発揮していただけるように、本人の情報収集やADLの把握に努めている。無理なく家事に取り組んでいただくようにしている。また、避難訓練・地域清掃ははじめ人の役に立つ自分を意識できるように声掛けを行っている。	入居者の能力に応じて家事を手伝ってもらったり、入居者同士の助け合いを促している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設にまかせっきりになるのではなく、家族様が主体となって介護にかかわっていただけるように意識している。通院や医療関係との話あいなどはご家族と医療関係が話をしてもらえるように間に入るようにしている。また、面会に来ていただきやすい雰囲気作りにも注意し、面会時間等は特に制限はしていない。	家族に入居者の状況を定期的に伝え関わる機会を増やすように努力している。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅との生活との差はあるが、できるだけなじみのものやお好きなものを居室に取り入れていただけるようにご家族にご協力いただいている。自宅への外出をはじめ、ご家族のみでなく、知人や親せきの方の面会もお声掛けしている。また、居室での面会が大勢で狭い場合は施設内の他のお部屋などの用意することもある。	家族や知人が気安く来訪して過ごせる雰囲気を作っている。今までの馴染みの人との交流を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うもの入居者同士が楽しむ時間も大切にしながら、お互いが一緒にいる空間を楽しめるように配慮している。また、避難訓練などADLの高い人が車いすの介助をしたりお互いが安全面に配慮しながらも支えあうように工夫している	認知症の症状により支え合うことは難しくなっているがスタッフはできるだけ入居者同士の交流が図れるように努めている。体操や歌を毎日一緒にすることで楽しい時間を共有している。	

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退去(死亡も含む)の方にもOBとして家族会に参加していただいている。また、毎月の行事予定の便りも送付させていただき、参加を呼びかけている。	毎月の行事予定を送り参加を募っている。	行事の参加と共にボランティアとして関わったり、ホームへ提言してもらえような関係を継続していく工夫を。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き出すようコミュニケーションに努めている。言語コミュニケーションの難しい方にはご家族からの聞き取りや、センター方式やひも解きシートを用いてスタッフ間で話し合い本人の意向や思うを推察しケアに取り入れている。	日常的な関わりの中から思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は周辺の人やスタッフに聴き取り本人本位のケアを配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況を本人や家族様から聞き取るようにしている。入居時に家族様に記入していただくセンター方式の用紙を活用している。また、ケアマネや施設など関係機関からの情報提供もお願いしている。	入居までに本人や家族の意向及び生活歴、環境の把握を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で本人の持てる力をスタッフ間で共有できるように、連絡ノートや定期の会議、情報共有会議、事例検討を行っている。また、行事の際には避難訓練など終了後状況の把握を含め反省会を行い認識の共有を図っている	定期的なミーティングや連絡ノートや日ごろの話し合いで入居者の現況についてはスタッフ間で共有がでている。	
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に1度はプランの見直しを行い、ご家族と話し合い、確認・同意をいただいている。会議や事例検討などで出てきた問題をプランに入れたり、モニタリングをスタッフと共に行っている。また、プランは日々の介護記録のファイルにいれ、何時でも確認できるようにしている。	3ヶ月毎のプランの見直しをきちんと行い課題やケアのあり方をその都度、関係者と検討がなされていて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記録している。また、連絡ノートなどを用いて情報の共有や実践に活かすようにしているが、申し送りが不十分なこともあり課題である。問題や課題として上がったものに対して個別ケアや居居の環境づくりを行ってきた。	個別記録には、日々の様子やケアについて記されている。介護計画にも反映されている。	夜勤者との情報共有を細やかに
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お孫さんの結婚式への参加などご家族様と相談しながら、介護タクシーの手配など支援にとりくんだ。受診などもご家族様の状況によっては病院までの送迎なども行っている。	入居者の様々な場面に全て対応する取り組みをしている。	

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会の行事に参加している。また、地域のある武庫川女学院音楽部の有志による月1回のコンサートにも出かけたり、学生の実習やボランティアの受け入れも行った。施設の避難訓練に自治会の方の見学もあり、今後の協力体制についても話し合っている。	恵まれた生活環境の中で入居者は地域の学校との交流や買物・散歩などで心身の活性化をはかる支援を行っている。	
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医とはご日ご貴様を通して連携を取るようにしている。施設としては、内科・心療内科・皮膚科・歯科などの往診をお願いし、平素より相談しやすい関係に努めている。事故などでの怪我をされた場合は、ご家族と相談し外科・整形外科等受診している。	本人、家族との話し合いの上、必要に応じて各科の往診につないでいる。通院の場合も同様で主治医との関係も良好である。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師に、相談し医療的なアドバイスをもらっている。受診の判断や簡単な処置は行ってもらっている。	入居者の体調の変化には細心の注意をはらい気になる事はすぐに併設施設の看護師に相談し助言を得ている。必要な時は適切な処置ができるよう努めている。	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平成25年5月より入院された方はいない。入院した際にはアセスメントシート(日々の様子や薬情など)を渡している。退院時には問題点や退院後の注意点などサマリーをいただくようにしている。また、施設かかりつけ医に相談・準備も行うようにしている	入居者の心身状況を日々記録し入院の際に提示出来るようにそなえている。近隣の医療機関とは良好な関係である・	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成25年2月から看取り・終末期の方がおられない。看取りの指針・家族に医療行為の意向確認を行っており、状況に合わせて確認は再調査するようにしている。看取りケアをご希望している方もおられ、内科・心療内科・歯科ドクターにも伝え、状況に合わせて対応していく方針を共有できている	入居者や家族とは終末期の話し合いをしている。状況に応じて家族や医療機関、スタッフとの連携を深めて支援をしていく。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画に基づき、事故発生時対応・災害非常時発生対応の研修を行っている。事故発生・急変時対応マニュアルもスタッフルームに貼りあわせて対応できるようにしている。	日ごろより緊急時対応の訓練を行っている。マニュアルもスタッフの目につく所に掲示している。	
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月必ず行っている。火災のみでなく地震や津波想定も訓練も行っている。また、定期的にスタッフの意識調査のためにアンケートも取り、アンケート結果をマニュアル作りやスタッフが安心できる体制づくりに役立てている。地域の自治会の方の見学を受け入れたり、自治会からの要望で法人として避難訓練への協力なども行っている。	毎月1回避難訓練を行い避難方法の修正をはかっている。自治会とも連携し災害時の協力体制作りに努めている。	

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人にその人にとってわかりやすい言葉を選び、意向の確認や声掛けを行っている。本人の様子を観察しながら声掛けのタイミングにも注意している。また、排泄や入浴介助などは、同性介助が必要と思われる場合は対応している。	一人ひとりの尊厳を守るケアがなされている。排泄や入浴の介助にきめ細かな配慮をしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中でそれぞれの趣味や嗜好を取り入れる様に心がけている。入浴や散歩など本人の意向を確認し、できるだけ対応している。介護側の都合で生活のスケジュールを決めるのではなく、本人の思いや体調に合わせた生活を心がけている	日常生活の様子を細やかに観察し本人の思いや希望を把握しようと努めている。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の曜日や時間を決めていない。毎日できるだけ午前・午後入れるようにしている。起床時間屋消灯時間なども決めていない。食事時間も幅を持たせている。日々の散歩など希望に添えるように工夫している	一人ひとりのペースに合わせて援助を行っている。その日の過ごし方も様子を見ながら当日決め本人の希望に添うよう努めている。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などは本人の好みを尊重するようにしており、スカートが好きな方は日常の生活もスカートで暮らしていただいている。日々の服装も更衣時に一緒に選ぶ・確認するようにしている。髪型もご家族と相談し定期的に散髪していただいたり、毎日の生活などにも心を砕いている。	一人ひとりのがその人らしい装いで暮らしている。美容院への付き添いや毎日の服装選びも自己決定できるような支援を行っている。	
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は一緒に配膳するようにしている。夕食は台所でスタッフ中心に調理をしており、できることを一緒にしていただいている。また、夕食準備中に、入居者様がリビングや食卓で過ごすことができることが多いので、調理の音や匂いを楽しんでもらえるように会話するように心がけている。お誕生日には献立の希望を聞いたり、バイキング形式にしたり、冬場は鍋料理なども楽しんでいる	入居者の力に合わせて、料理の下ごしらえ、食事の準備を手伝ってもらっている。多様なメニュー・行事食に力を入れているのが伺える。	スタッフの関わりによってテーブルに同席した人達の会話がはずむ事を期待したい。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べることを楽しんでもらえるように工夫している。刻み職とろみ食も出きるだけ普通食のまま提供し、食べ始めてから一人一人に食べやすい状況に加工している。食事量・水分量は細かく記録し、状況によって捕食も提供している。	一人ひとりの体調に合わせた食事を提供している。食事量・水分量には特に配慮している。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず毎回口腔ケアを行い、見守り・介助しながら口腔内の確認をしている。就寝前には義歯は外し、洗浄剤に付け清潔が保てるようにしている。月1回の歯科による口腔ケアでは専門的な面からアドバイスを頂き実施するようにしている。歯の状況によって家族様と相談し治療も行なっている。	毎食後口腔ケアを行い本人の力に応じた援助をしている。月1回の歯科検診で必要な治療を受けている。	

自己	第 三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決め排泄誘導するのではなく、それぞれにあった排泄の声かけや誘導を行うようにしている。下着もそれぞれの状況に合わせ対応している。出来るだけ日中は布パンツで過ごせるように心がけている。9名中3名が布パンツ使用中。必要の際は排泄の状況把握を行うため、24時間観察し記録をとっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立を促す援助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、それぞれの排便リズムを把握し、運動と水分量(1日1000リットル以上摂取)を心がけ、食事に根菜類や繊維質・乳製品などを取り入れるようにしている。夕食後には、飲むヨーグルト(R-1)摂取している。便秘気味の方には、食物繊維(イーージーファイバー)を朝食時に摂取してもらっている。状況に応じ、ホットパットやマッサージなども行うこともある。	順調な排便の為に色々な方法を試している。水分・食材・運動などに毎日配慮している。	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間を決めていない。毎日できるだけ午前・午後入浴できるように工夫し、週2回以上は入浴していただけるように声かけを行っている。希望する方には、毎日入浴してもらっている。季節に合わせ、菖蒲湯やゆず湯等も他惜しんだり、併設デイスービスの広いお風呂に入りに行くこともある。	入浴の曜日や時間帯は決めず、一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。楽しく入浴できるように色々な工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や消灯時間は決めていない。但し、夜であるとわかるように少し光を落とすなどの工夫はしている。体調を考慮し、休息が必要と思われる方には、休息が取れるように環境を整備している。日中に陽に当たる・活動してもらるように配慮し、日中逆転にならない工夫を行っている。	一人ひとりの状況に合わせて安眠・休息できるよう工夫し、常に体調が安定するよう努めている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のマニュアルや個別支援方法などを作成し、スタッフ間で共有するようにしている。また、じょうきょうが変化があれば、マニュアル・支援方法などは会議などで話し合うようにしている。	一人ひとりの薬の内容などはスタッフがよく理解し援助の共有をはかっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に家族より生活歴や嗜好品、楽しみなど聞き取りケアに活かすようにしている。施設の周りや屋上に出かけたり気分転換も図る心がけている。また、併設キッズルーム(小規模保育園)との交流も行っている	一人ひとりの生活歴や持てる力に合わせた役割を考え、生きがいににつながる支援を行っている。	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ地域へ毎日出かけたり、施設屋上やホールなどグループホームから出る機会を持っている。月1度は外出行事を持ち、小グループでそれぞれにあった支援ができるように工夫している。お墓参りやその他希望の外出はご家族に協力していただいている。外出行事はご都合のつく家族は参加していただくこともある。	一人ひとりのその日の意向を汲んで外出支援を行っている。買物・散歩などは頻繁に出かけている。家族や地域の人々の支援を受け、本人の希望をかなえるよう努めている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・家族様の希望がある方に関しては、財布やお金を本人が管理している方もおられる。希望があれば、職員が買い物の代行をしている。外出時などにお菓子など好きなものを買えるよう支援している。	一人ひとりの希望や力に応じて援助している。家族の意向も配慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の利用の支援もしているが、現在は使用していない。手紙など希望があれば送付の支援をしている。また、季節に合わせ、暑中見舞いや年賀状など出せるように支援している。	一人ひとりの能力・希望に応じた支援をしている。年賀状や暑中見舞いは出してもらえるように支援している。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、常に清掃・空調の管理を行い清潔で過ごしやすい環境や場面に応じて心地よい音楽を流すなど工夫をしている。日光の光を十分意識し、カーテンの開閉・照明に留意し、入居者様が昼と夜の違いがわかるように工夫をしている。また、季節を感じられるよう花を入居者様と一緒に飾っている。開設3年たち、建物や家具などにも生活感がでてきたことを大切にしている。	清潔で居心地の良い環境作りに努めている。入居者がホームで育てた花を活けたり手作りしたものを飾って、家庭的な雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でくつろぐ方、共有のリビングでくつろぐ方おられる。リビングでは椅子を移動しその時々それぞれがくつろげる空間を支援している。中庭に椅子や机を運び、気のあうもの同士で会話が弾むようにも配慮している。	個室や共有空間はくつろげる雰囲気を入居者は和やかな様子で過ごしている。	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具や物を家族と相談し持ち込んでいただいている。また、入居後も本人が寝る以外の部屋だけになるのではなく、本人が落ち着ける部屋になれるように家族様と相談しながら、環境づくりを行っている。本人の嗜好に合わせ、家電の持ち込みもご家族の協力をお願いしている。	自宅で生活していた時の馴染みの家具や調度品を持ち込み自宅から継続した環境の中で生活することができる。各室個性的なインテリアになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に表れをあげたり、目印をつけたりしている。それぞれのADLや習慣を把握し職員間で情報の共有、リスクマネジメントを行い、危険因子の排除、動線の整備なども行っている。	入居者が安全に安心して生活できるように工夫している。一人ひとりの体力や状況を考慮し、自立を促すよう努めている。	